

雪の鳥取を行く

日本の冬は寒くて厳しい。特に北日本と日本海側そして山間部は雪と風との闘いの中で生活を強いられる。神戸から岡山を經由して鳥取、島根へ向かった。透き通る日本晴れの天候に恵まれ、高速道路を快適なドライブは続いた。しかし中国山脈にさしかかったころから急に天候は崩れ始めた。そしてあっという間に雪がチラホラ。「♪～雪が降ってきた ほんの少しだけれど…～♪」ウキウキした気分で歌を口ずさむ。雪化粧の美しさに魅せられてうっとりとするのもつかの間、高速道路の標識にスノータイヤ装着車以外は通行禁止。あえなく一般道へ迂回させられてしまった。雪は北へ進めば進むほど激しさを増してきた。視界も遮られるほどの雪であった。

雪とほとんど縁のない神戸で育った私。故に雪に対する憧れは強い。この年になって俳句を少々たしなみ人生の楽しみの一つにもなっている。季語の意味を最大限に大切にしながら巧みに詠むように心がけている。

雪にも降る時期によって名前も変わる。初雪、早雪、初冠雪、終雪、名残雪、残雪、去年の雪、根雪、万年雪。更に雪自体の状態を表した名前もある。白雪、雪花、深雪、細雪、粉雪、米雪、灰雪、淡雪。そして積もった様子を現した名前に銀世界、銀雪、雪化粧、新雪、瑞雪、粗目雪、雪明かり、雪持ち、雪帽子。

長い歴史の中で雪と共に生き、生活を共にする日本人の感性は実に美しいものがある。どのような厳しい雪であっても自然の中で適応する人間の智慧に感動する。 撮影 2016年冬

